

岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会（岐阜市）

中心市街地

商店街活性化

取組の背景

○ 柳ヶ瀬の歴史

柳ヶ瀬は、明治の中頃までは桑畑や沼地であったが、明治20年の東海道線開通、神田町通りの整備、金津遊郭（現在の西柳ヶ瀬）の誕生に伴い、神田町通りと西柳ヶ瀬を結ぶ柳ヶ瀬本通りが開通した。

○ 柳ヶ瀬の発展

明治44年の岐阜駅～柳ヶ瀬～美濃町間電気軌道の開通、大正時代に柳ヶ瀬周辺を会場とした大規模博覧会の開催を契機に勢いを増し、丸物百貨店（昭和5年）、劇場・映画館などが立地し、周辺地域の人々が集う県下随一の商店街・歓楽街として大きく発展した。

戦後、岐阜駅周辺地区の既製服製造・卸売業（問屋街）が全国有数のアパレル市場に発展し、全国から来客した影響で、全国的にも有名な歓楽街・商店街へと成長していった。



昭和初期夜の柳ヶ瀬通り

○ 柳ヶ瀬の現況

昭和40年代中頃から進んだ岐阜県における急速なモータリゼーション¹や郊外型住宅団地の開発などにより居住人口の郊外への移出が進み、郊外型大規模集客施設の進出や公共公益施設の郊外移転により、徐々に求心力が低下し、柳ヶ瀬地域内の大型商業施設のうち平成11年には近鉄百貨店、平成14年には長崎屋が撤退した。オイルショックやニクソンショックの影響下でも比較的好調であったアパレル産業も、プ

¹ 昭和59年度末、岐阜県は全国3位の世帯あたり乗用車保有台数であった。昭和57年度の旅客輸送構成比は、乗用車67.1%、バス17%、鉄道15.9%であり、全国値（乗用車46.4%、バス18.1%、鉄道35.3%）に比べても鉄道旅客輸送量の相対的な低さが目立つ。（岐阜県史より）

ラザ合意後の産業構造変化により、昭和60年以降は大幅に後退し、飲食店などに大きな影響を与えている。結果、柳ヶ瀬の商店数や歩行者通行量は大きく減少している。



柳ヶ瀬通商店街

取組の概要

岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会は、柳ヶ瀬地域に組織されている10商店街振興組合の連合会である。各種イベントなど共同宣伝売出し活動、環境整備事業、駐車場・共通バス券事業などを実施している。

取組の内容

- ・辻理事長就任後、600店舗の組合員との意志疎通円滑化のため、20人の理事に加えて5つの委員会を設け、約70名の体制で柳ヶ瀬の振興に取り組んでいる。
- ・販促活動などを、ほとんど大型店にお任せして、店主はその恩恵に預かっていたのが現実であった。またバブル期は放っておいてもお客さんが来る状態だった。しかし、近鉄が撤退し、気がつけば個店では販促活動が何も出来なくなってしまった。
- ・そこで、店主の意識改革を図るため、勉強会を始めた。実は柳ヶ瀬では店主の勉強会を開催したことはなかった。セミナーへの参加者が100名を超えるようになってきて、古くからの理事からも「変わってきた」と言われた。
- ・今年7月22～23日、柳ヶ瀬夏祭りというイベントを開催した。大型店にも協力を得て、柳ヶ瀬の商店にも、初めて夜の9時まで営業していただいた。かなりのお客さんを集客できたということで、皆さんが手応えを感じてきた。

- ・「柳ヶ瀬はいつでもイベントが行われている華やいだ賑やかなまち」というイメージを作り上げるため、年間通じて継続的なイベントを開催していくことが重要。



「柳ヶ瀬夏祭り」の様子

- ・NPO 法人 G-net など、大学生などの若手が行っているビーンズフェスタも定着してきている。若い力が柳ヶ瀬に活力をもたらしてくれている。
- ・今度は各店舗がそれぞれ特色を出していくために、フロントエンドとバックヤードの商品を分ける、ポップ化を図っていく、これをアクア・トトのプロデュースを手がけた藤村正宏さんを招聘し指導を受けながら進めている。
- ・顧客の囲い込みを図るため IT を積極的に活用。携帯サイトでの web サイトを構築進めている。携帯については、5 万人分のアドレスを集め、毎日、情報発信していきたいと考えている。
- ・柳ヶ瀬では2つの再開発事業も進んでいるので、商店街振興組合としても、意見を言わせていただきながら、活性化につなげていきたい。
- ・平成 14 年からは、駅と商店街を結ぶワンコインバス「柳バス」をスタートさせた。高齢者に優しいコミュニティバスとして注目されている。
- ・平成 17 年から、岐阜バス全線が利用できる「共通バス券」を発行し、郊外から来街するリピーターに好評を得ている。



成果

- ・商店街の個店に、まず自分達が自ら行動を起こし、個々の魅力を高め、収益を増やしてこうという気運が醸成されてきたこと。
- ・昨年に比べると、10%ほど通行量も増えてきた。

成果の要因

バブル期以降の中心市街地の著しい衰退による危機感や商店街振興組合連合会役員の若返りなどが契機となっている。

今後の課題

- ・柳ヶ瀬地域内の緑化を進めたい。憩いのスペースを設けるとお客様の滞在時間が長くなるし、地域の魅力向上に繋がる。
- ・最近の消費者はモノを買わない。それを前提に商店街の未来を考えなければならない。まちに魅力を持たせ、現地で消費してもらえる仕組みづくりが必要。
- ・大型商業施設の中心市街地への立地は、商店街には良い影響が大きいので否定的ではないが、大型商業施設に頼らない個店の経営体質の強化が一番大切である。

行政への期待

- ・岐阜駅周辺地域に支援の力点が置かれているが、柳ヶ瀬周辺部も既存ストックの集積があるため、これまでの投資を無駄にしないためにも活性化施策を行って欲しい。
- ・路面電車の廃止もあり、柳ヶ瀬へのアクセス機能が低下しており、行政も交えてアクセス確保のための対策を講じていきたい。

この人にお話をうかがいました！

岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会
理事長 辻英二さん

調査日：平成18年11月17日（金）

調査者：総合政策課 板津、岐阜振興局 永田